

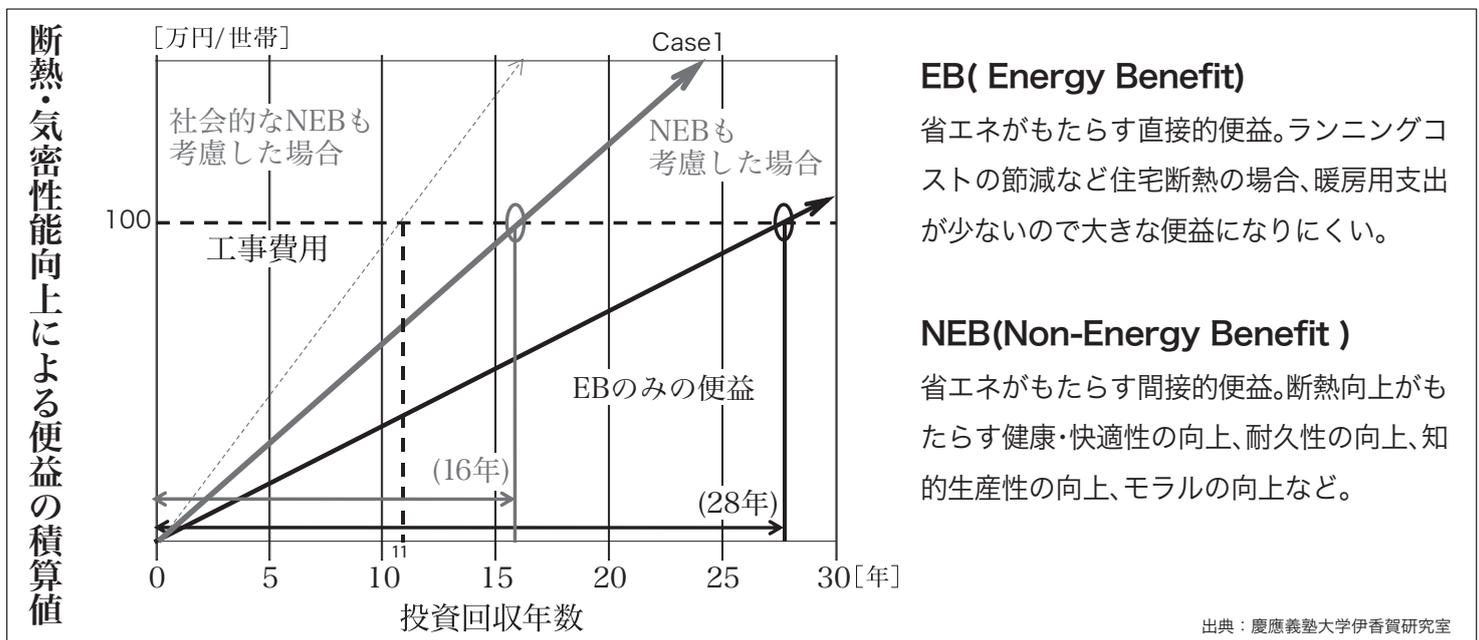
高性能住宅では、省エネルギーは当たり前の性能です。

省エネよりも病気になりにくい住環境が大切。

以前、省エネ効果(EB・エネルギー・ベネフィット)と省エネ以外の効果(NEB・ノンエネルギー・ベネフィット)の資金回収効果についてご説明したいと思います。

下図は、エコリフォーム(省エネルギーリフォーム)で断熱改修を行う場合、エコリフォームに使った資金の回収をEBの省エネルギーのみで回収しようとした場合、シミュレーションでは、28年もの期間が必要だと試算されています。

これは新築住宅において高断熱・高气密の省エネ住宅を施工した場合と通常の省エネルギー基準で施工した場合の経費差となって表れる問題です。目先の安さに釣られて性能の悪い住宅を建ててしまうと大変な経費差が生じます。35年ローンでは800万円以上の経費さも普通です。建てる前にしっかりと住宅の燃費についての話をお聞きください。



EB(Energy Benefit)

省エネがもたらす直接的便益。ランニングコストの節減など住宅断熱の場合、暖房用支出が少ないので大きな便益になりにくい。

NEB(Non-Energy Benefit)

省エネがもたらす間接的便益。断熱向上がもたらす健康・快適性の向上、耐久性の向上、知的生産性の向上、モラルの向上など。

省エネルギーと共に断熱・気密性能向上による疾病予防等のNEB(ノンエネルギー・ベネフィット)による便益を加算していくことにより、EBの省エネルギー効果のみの場合と比較すると12年も投資回収期間の短縮ができ、16年程度でエコリフォームの資金が回収可能であると試算されています。さらに社会的な便益である各種補助金や健康保険等の使用減も付け加えれば11年で投資回収が可能になるというシミュレーション結果です。

エコリフォームは個人的な便益も大切ですが、社会全体のNEBを考慮して行われる事で、EBのエネルギー削減効果の3倍に近い効果があることが認められると、このシミュレーション結果は示しています。NEBの様々な補助金制度や税制面の特典、疾病予防や健康保険の使用料金の削減は全て個人的な便益であると共に、社会的にも医療費の削減などの素晴らしい便益効果を生み出すことが判ります。

我が国の医療費は、37兆円(2010年)と言う膨大な金額が使われ、毎年1兆円規模で拡大しています。エコリフォームの温熱環境の改善によって、病気になりにくい健康体が維持できる環境が整うと、病気になりにくく健康保険の使用回数も減り、家計が助かり国にも負担を掛けない生活ができます。

新築住宅の場合も建築時にNEBを意識して住宅を建てるのが、どんなに重要であるかということも認識されなければなりません。住宅が長寿命で長持ち出来れば、EBもNEBも同時に実現でき、建築時のCO₂の発生率を抑制し、木材などのCO₂の貯蔵力などもフルに活用出来ます。

住宅を建てる前に、史幸工務店にご相談ください。皆様のご期待に応える住宅をお建てします。